

# シルクロードの仏教美術 —バーミヤーンとキジル—

宮治 昭

龍谷大学文学部教授・龍谷ミュージアム館長

## 1. バーミヤーンとキジルの地理的位置と相互の関係

- ① バーミヤーンはアフガニスタン、キジルは中国新疆の、いずれも中央アジアのオアシス都市近くに開窟された大規模な石窟寺院。シルクロード上に栄えた仏教遺跡で、時代的にもオーバーラップする部分がある（バーミヤーン石窟は6～8世紀頃、キジル石窟は5～7世紀頃）。
- ② 両者は大仏の造立、石窟の構造、壁画の主題・様式などの点で相互に繋がりが見られる一方、相違も大きい。→中央アジアの仏教美術は、当時のシルクロードの東西交流によって相互に影響関係をもったことが考えられるが、基本的にはそれぞれのオアシスに根づいた仏教文化を築いていた。
- ③ いくつかの視点のもとに両者を比較すると、それぞれの仏教美術の様相がより具体的に明らかとなろう。特に石窟の構造と壁画装飾のあり方に注目してみたい。
- ④ バーミヤーン石窟は2001年に破壊に会い、キジル石窟は20世紀初めに壁画や彫像の一部が海外に運び出された。いずれも現状とかつての調査記録や現存壁画との照合が重要な課題。

## 2. バーミヤーン石窟の仏教美術

(1) バーミヤーンの調査、研究史

(2) バーミヤーン石窟の仏教美術

①遺跡の概観

②バーミヤーン石窟の年代論

③東大仏（高さ38m）とその仏龕天井壁画…釈迦大仏、その天井にイラン系太陽神ミスラ

④西大仏（高さ55m）とその仏龕天井壁画…弥勒大仏、その天井に「弥勒菩薩の兜率天世界」

⑤三体の坐仏（消失）と仏龕天井壁画…天井中央に弥勒菩薩

⑥祠堂の石窟構造と壁画装飾

プラン…正方形／八角形／円形

天井……ドーム／

ラテルネンデッケ

} 集中堂 → 天井中央に弥勒菩薩、周囲に千仏、  
入口上部に小涅槃図の壁画

その他に、長方形プラン＋ヴォールト天井の石窟構造

## 3. キジル石窟の仏教美術

(1) キジルの調査、研究史

(2) キジル石窟の仏教美術

①遺跡の概観

②キジル石窟の年代論

③石窟構造…方形＋ドーム天井窟、方形＋ラテルネンデッケ天井窟、長方形＋ヴォールト天井窟、後期には圧倒的に中心柱窟が多くなる

④キジルとバーミヤーンの石窟構造の比較

⑤壁画の主題

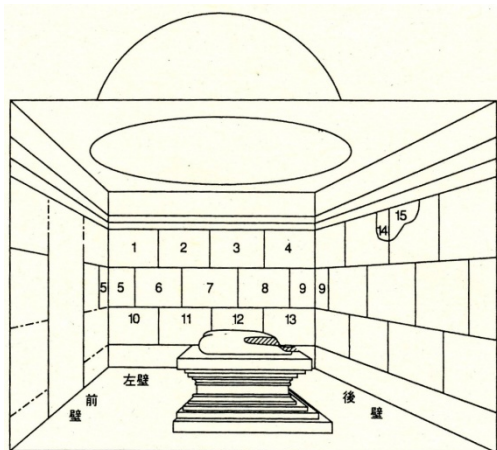
仏伝図・本生図・因縁説話図/ 寄進者像

天象図（太陽・月・風神・雨神・金翅鳥・飛翔する僧）

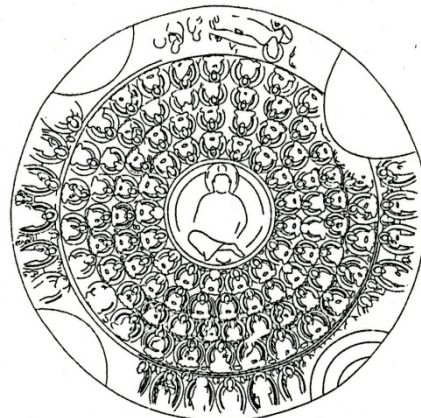
涅槃の美術（「涅槃」「荼毘」「分舍利」など）と「兜率天上の弥勒菩薩」

〔参考〕キジル石窟の構造—バーミヤーンとの比較

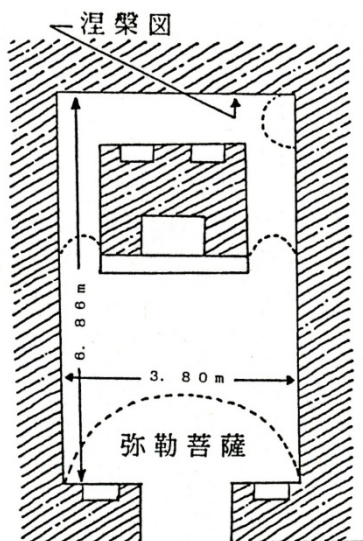
キジル石窟	バーミヤーン石窟
方形窟 { (1) ドーム天井 (2) ラテルネンデッケ天井 (3) ヴォールト天井	方形窟 } (1) ドーム天井 (スキンチアーチ) 八角形窟 } (2) ラテルネンデッケ天井 円形窟 } (3) クロスヴォールト天井
長方形窟：ヴォールト（かまぼこ）天井	長方形窟：ヴォールト（かまぼこ）天井
大仏窟：高さ 10m 前後の大仏 構造は中心柱窟と同じ	大仏窟：高さ 38m、55m の大仏 構造は足下に右繞のための回廊と周囲に祠堂窟
中心柱窟： 前室+ヴォールト天井の主室+中心柱と回廊 インドのチャイティヤ窟との関係 敦煌北魏時代の中心柱窟との関係	中心柱窟なし



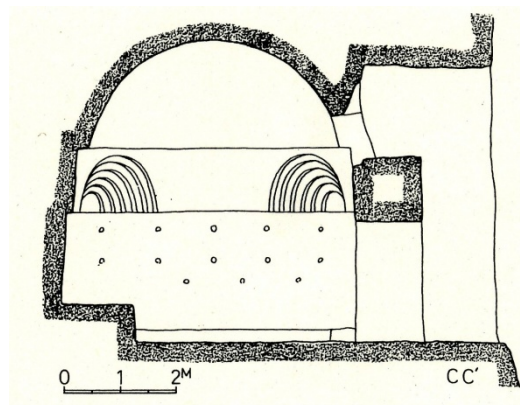
キジル第 76 窟（方形・ドーム窟）見取り図



バーミヤーン Ee 窟（方形・ドーム窟）天井壁画線図



キジル第 38 窟（中心柱窟）平面図



バーミヤーン A 窟（方形・ドーム窟）断面図